

資料⑤-2 技術スタッフからの声

弊社は東京、オランダに拠点を持つテクニカルディレクションやプロデュースを行うプロダクションです。おもに展覧会・展示会、舞台芸術他、イベント的な企画に関わることが主な業務のため、このパンデミックにおける国境封鎖や外出規制により例年の80%~90%の収入を失うことになっているのが現状です。

予定のつかない延期及び中止の繰り返しにより、初期段階（2月から3月）に於いては24時間ごとに変わる世界中の状況に対してどのように対応すべきか、冷静さを失う場面もありました。しかし、世の状況を冷静に見渡しつつ現在は公庫などから融資を受けるべく資料の整理や内部および関連外部スタッフとともに「コロナ後の世界」に向けた準備をし始めているところです。極冷静な目線を各々が持ちながらこの世に対して対応していかないといけないということ。常に命の危機ということが隣り合わせの状況であること。これを人類全体が意識して「対応する」ことを行わなくてはなりません。情報社会において、このパンデミックによる国境の意識は確実に次の世界を異なる仕組みに誘うでしょう。

有限会社ルフトワーク 代表取締役 遠藤豊



遠藤豊

LUFTZUG 代表/アートディレクター/プロデューサー/テクニ
カルディレクター。1977 年新潟生まれ。舞台芸術から派生し、
音楽、映像、デザイン、テクノロジーほか領域を問わず関係性

を構築する。2005 年有限会社『ルフトツーク』を東京に、2012 年『LUFTZUG
EUROPE』2019 年『Lugtje』をアムステルダムに設立。曖昧なメディアの媒介
として役割を確立しようと活動を広める。人と感覚の交流、感覚の遍在化を目指
し国内外で積極的に活動。CITIZEN 『LIGHT is TIME』(2014 ミラノ、東京)、
建築家フランク・ゲーリー展『I Have an Idea』(2015 東京)、向井山朋子『La Mode』
(2016 台中)、『HOME』(2016)、『GAKA』(2018 テルシュヘリング、高知、神
津島)ほか、演出・プロダクション制作などに携わる。 <http://www.luftzug.net/>